

4 経済状況

事業所

令和元年経済センサス「事業所の活動状態に関する集計」によると、大町町内の活動状態にある事業所数は全 267 件（うち 22 件が新規活動）あり、26 件が廃業となっています。

表 2 事業所の活動状態に関する集計

	活動状態			
	総数（存続・新規把握）	存続事業所	新規把握事業所	廃止事業所
大町町	267	245	22	26

出典：令和元年経済センサス

就業者数

就業者数の推移をみると、平成 2 年の 4,147 人から平成 27 年の 2,948 人へと減少傾向であることがわかります。

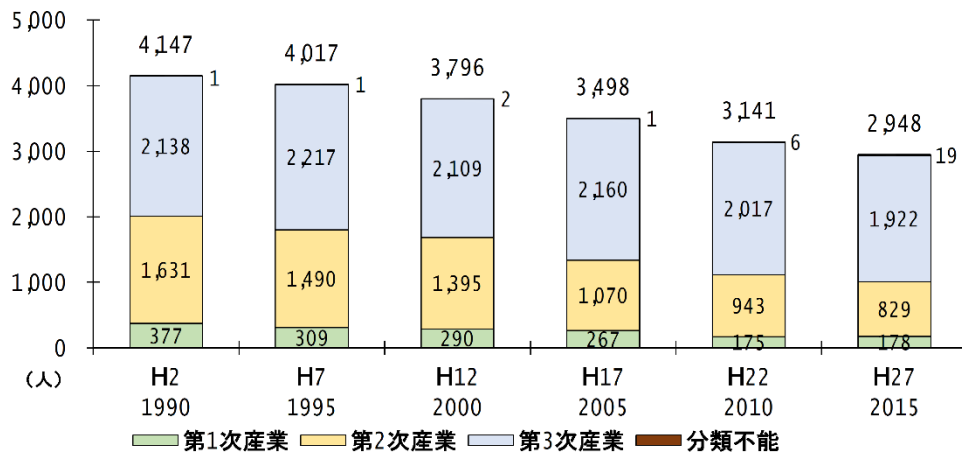


図 1-1 就業者の推移

出典：第 2 期大町町まち・ひと・しごと創生総合戦略（国勢調査より作成）

産業 3 区分別就業者の構成比をみると、平成 27 年には第 1 次産業が 6.1%、第 2 次産業が 28.3%、第 3 次産業が 65.6%となっており、国・県と比較すると第 2 次産業の構成割合が特に多くなっています。

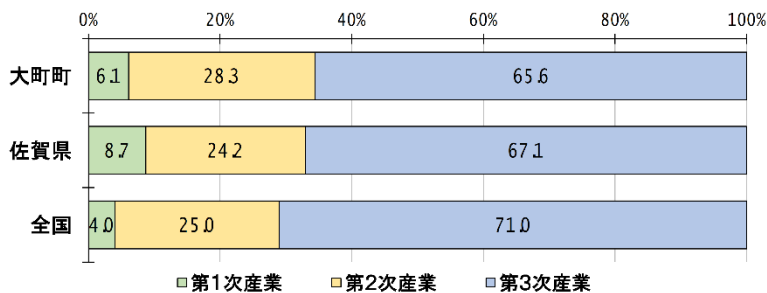


図 1-2 産業別就業者の構成比の比率（平成 27 年）

出典：第 2 期大町町まち・ひと・しごと創生総合戦略（国勢調査より作成）

産業別の就労者をみると、男性は「製造業」、「建設業」、「卸売業、小売業」の従事者が多く、女性は「医療、福祉」、「卸売業、小売業」、「製造業」の従事者が多くなっています。

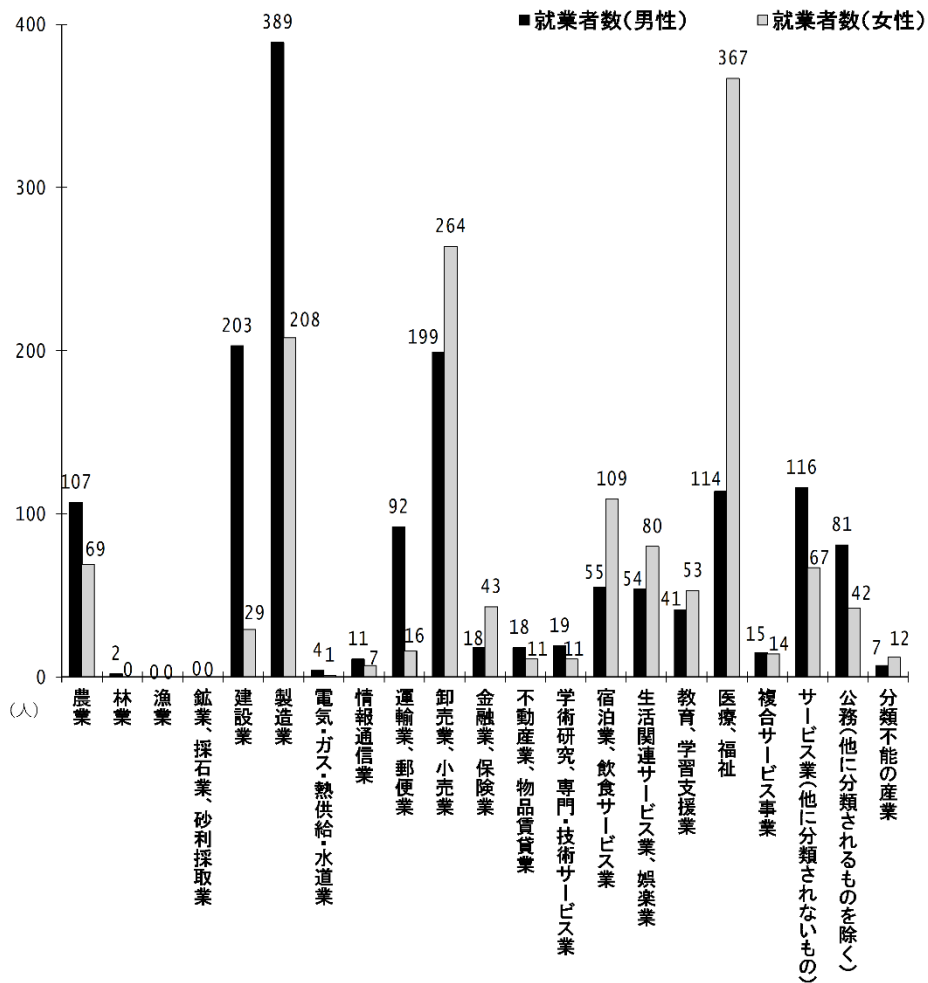


図 1 3 産業別・男女別の就労状況 (平成 27 年)

出典：大町町第 5 次総合計画 (国勢調査より作成)

5 立地状況

商業施設

町の商業施設の多くは国道 34 号沿道に立地していますが、商店は町の中心部である本通り商店街に立地しています。

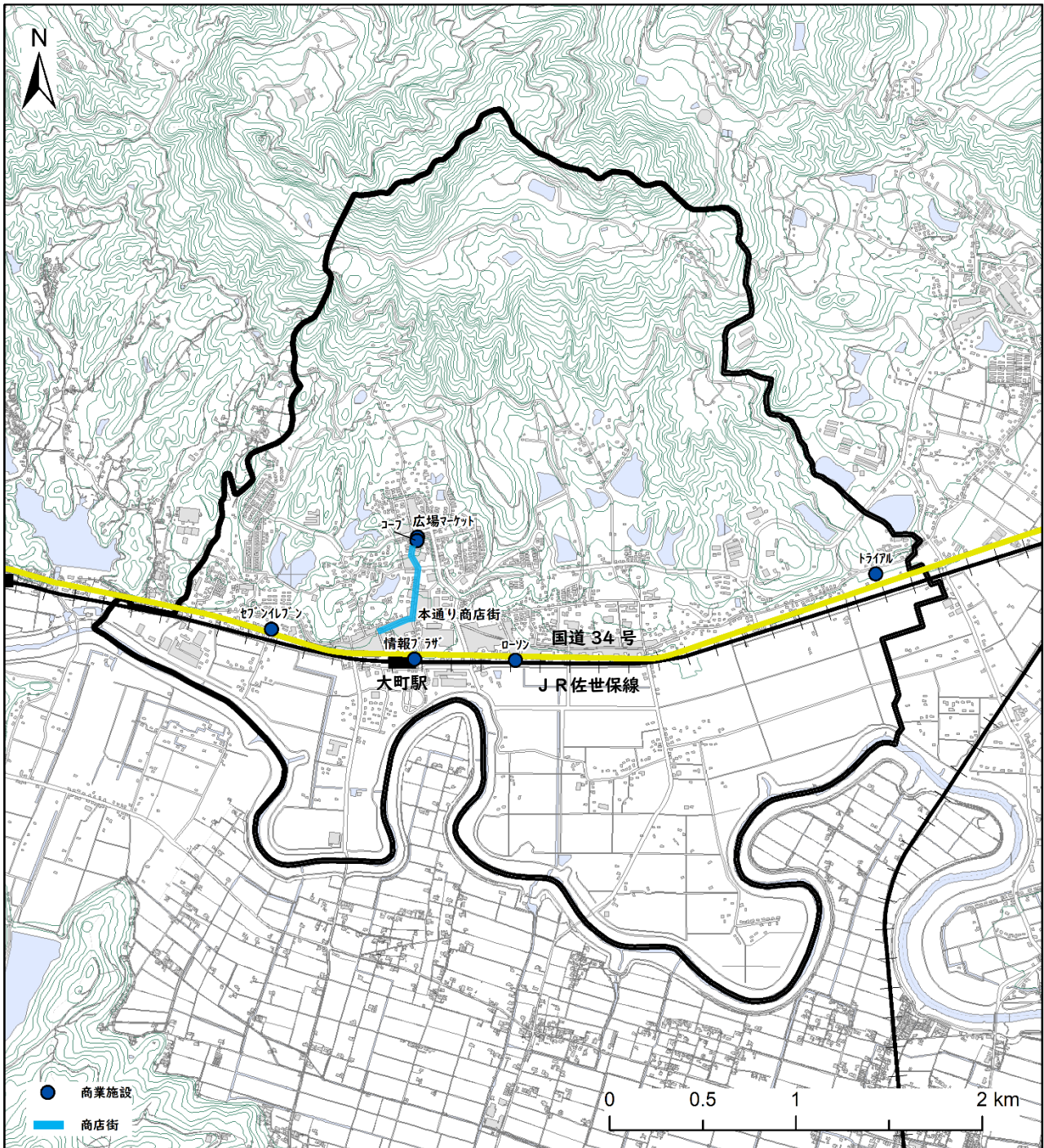


図 1 4 商業施設の立地状況

医療施設

医療施設は、二次救急医療機関に指定されている順天堂病院と、その他診療所（医院）が立地しています。

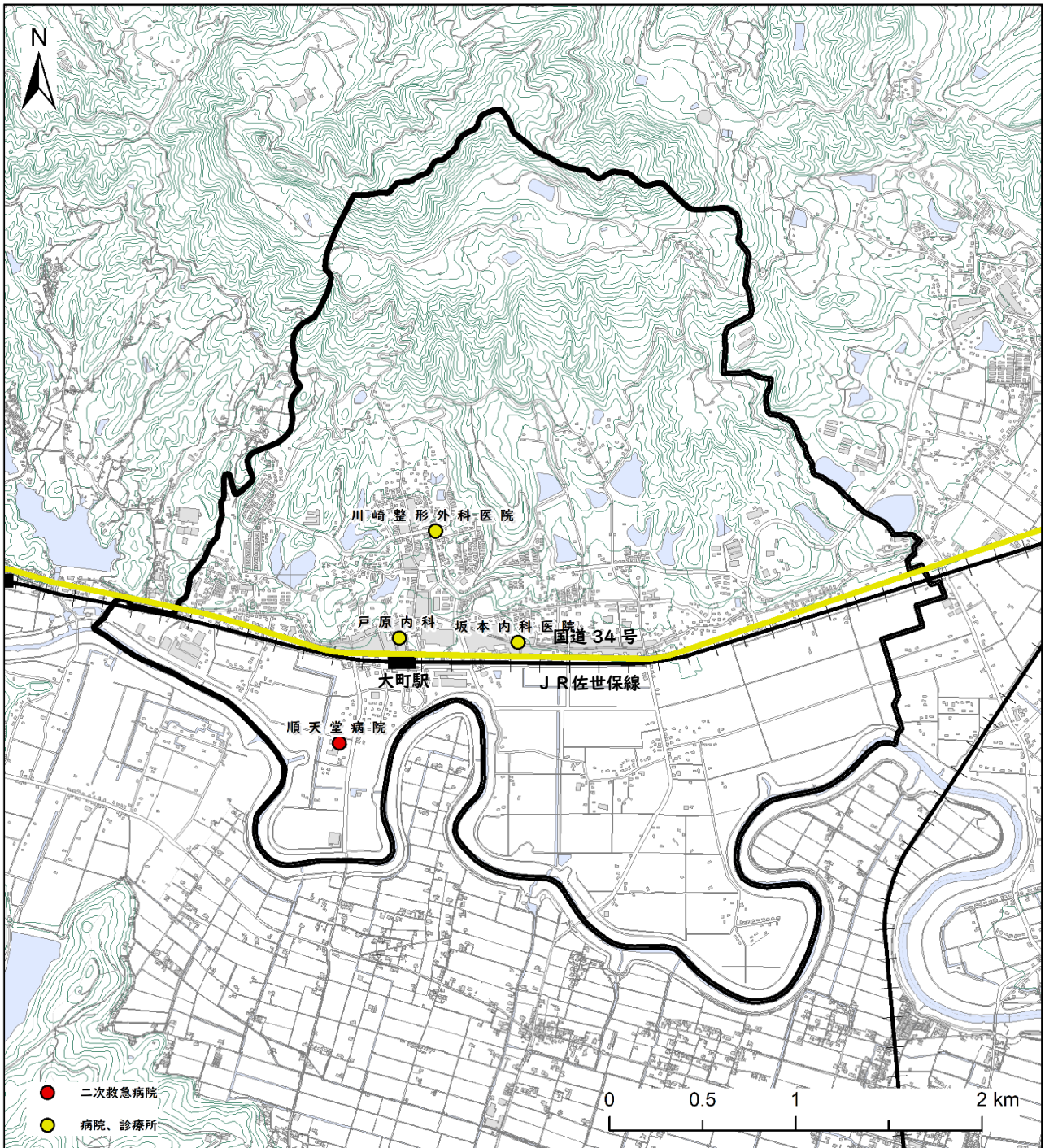


図15 医療施設の立地状況

出典：大町町暮らしの便利帳

公的・集客施設

公的施設及び集客施設は、銀行・郵便局等の金融系施設が国道 34 号沿道近辺に立地しています。また、大町温泉ひじり乃湯が高砂町付近に立地しています。

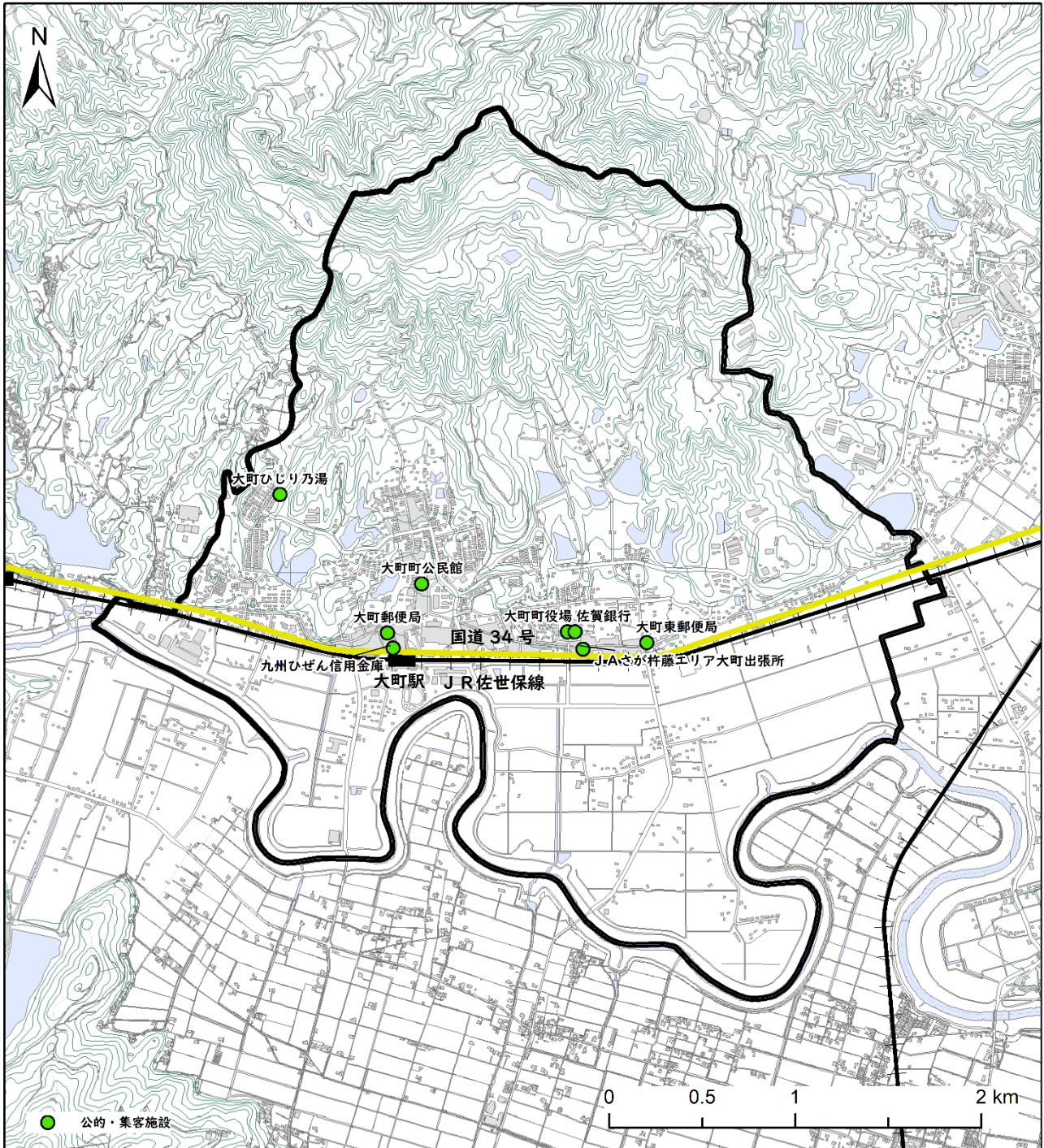


図 16 公的・集客施設の立地状況

6 環境に対する取組み

大町町では、「地球温暖化対策実行計画（事務事業編）」を作成しており、平成29年度から令和3年度の5年間の取組みで、温室効果ガス総排出量を3%削減することを目標としています。なお、令和3年度中に見直しを検討しています。

目標

計画期間中の温室効果ガス総排出量を3%削減します。

各年度の温室効果ガス排出量の実績と目標の達成状況は、計画の進行管理の項に示すように、適宜、情報公開していきます。

基準年度の温室効果ガス排出量及び目標排出量

項目	単位	基準年度（平成27年度）			目標量	
		使用量	排出係数	CO ₂ 排出量 (kg)	使用量	CO ₂ 排出量 (kg)
ガソリン	ℓ	10,011	2.322	23,246	9,711	22,549
灯油	ℓ	218	2.489	543	211	525
軽油	ℓ	489	2.585	1,264	474	1,225
A重油	ℓ	45,200	2.710	122,492	43,844	118,817
LPガス	m ³	2,300	5.968	13,726	2,231	13,314
電気使用量	kw h	953,487	0.509	485,325	924,882	470,767
計				646,595		627,197

出典：地球温暖化対策実行計画（大町町：平成29年4月）

1-2 交通特性

7 交通手段特性

佐賀県の自動車保有台数は、平成30年から令和2年にかけて減少傾向ですが、総人口比で見ると増加しています。

大町の自動車保有台数は、平成30年から令和元年にかけて減少していますが、令和2年は増加に転じています。総人口比では、佐賀県平均よりも低い値となっていますが、増加傾向を示しています。

表3 自動車保有台数の推移

		平成30 (2018)年度	令和元 (2019)年度	令和2 (2020)年度
佐賀県	自動車保有台数	334,504	335,264	336,795
	総人口	819,110	814,211	808,821
	総人口比	0.408	0.412	0.416
大町町	自動車保有台数	2,253	2,205	2,211
	総人口	6,397	6,261	6,158
	総人口比	0.352	0.352	0.359

出典：自動車保有台数（九州運輸局HP）、総人口（佐賀県統計分析課HP）

8 町外との人の流動状況

大町町と近隣自治体間の通勤・通学の流動は、武雄市や佐賀市、白石町などとの結びつきが強くなっています。佐賀市とは流入数より流出数が多くなっていますが、小城市とは流入数の方が多くなっています。その他の市町とは、流出・流入数がほぼ同じ値となっています。

表4 大町町から主な周辺市町への通勤・通学者数とその割合（流出：平成27年）

市町名	大町町からの周辺市町への通勤・通学者数	
	[人/日]	割合
武雄市	540	26.0%
佐賀市	474	22.8%
白石町	267	12.9%
江北町	194	9.3%
小城市	151	7.3%
多久市	99	4.8%
⋮	⋮	⋮
大町町から佐賀県内への 通勤・通学者総数	2,075	100.0%

出典：国勢調査

表5 主な周辺市町から大町町への通勤・通学者数とその割合（流入：平成27年）

市町名	周辺市町から大町町への通勤・通学者数		
	[人/日]	各市町の佐賀県内への 通勤・通学者総数	割合
武雄市	548	9,074	6.0%
佐賀市	294	14,052	2.1%
白石町	268	5,039	4.8%
江北町	227	3,138	7.2%
小城市	224	13,229	1.7%
多久市	78	4,861	1.6%

出典：国勢調査

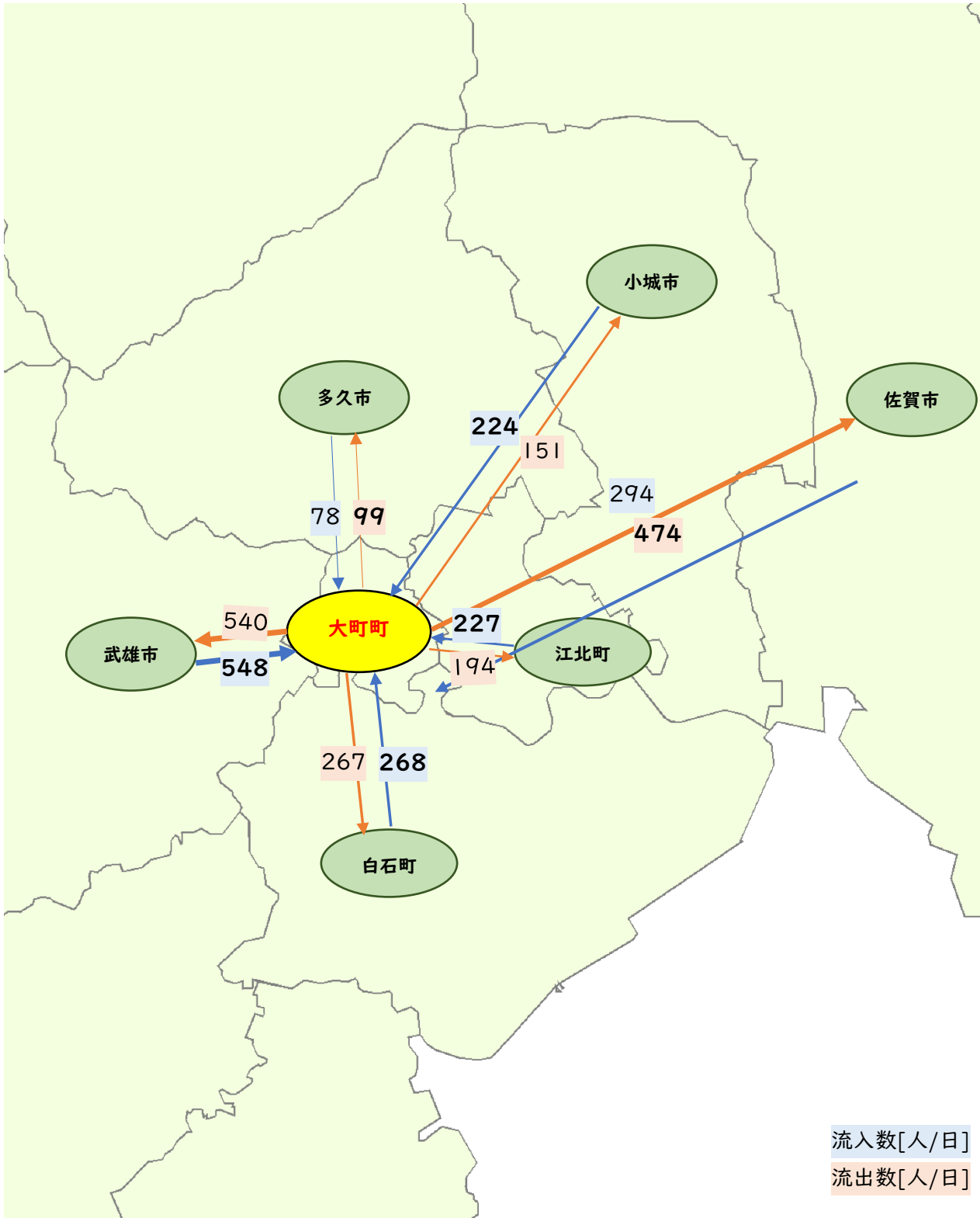


図 17 大町町と主な周辺市町との通勤・通学流動（平成 27 年）

出典：国勢調査

大町町と佐賀県及び九州内他県との通勤・通学の流動は、佐賀県内への流動がほとんどを占める中で、福岡県及び長崎県との流動も多少みられます。

表6 大町町から九州内他県への通勤・通学者数とその割合（流出：平成27年）

県名	大町町から他県への通勤・通学者数	
	[人/日]	割合
佐賀県	2,075	96.2%
福岡県	53	2.5%
長崎県	23	1.1%
熊本県	1	0.0%
宮崎県	0	0.0%
鹿児島県	1	0.0%
大分県	0	0.0%
⋮	⋮	⋮
大町町から町外への 通勤・通学者総数	2,157	100.0%

出典：国勢調査

表7 九州内他県から大町町への通勤・通学者数とその割合（流入：平成27年）

県名	他県から大町町への通勤・通学者数		
	[人/日]	佐賀県内及び、 他県から佐賀県への 通勤・通学者総人口	割合
佐賀県	1,949	105,324	1.9%
福岡県	13	33,351	0.0%
長崎県	6	5,571	0.1%
熊本県	0	654	0.0%
宮崎県	0	70	0.0%
鹿児島県	0	86	0.0%
大分県	1	191	0.5%

出典：国勢調査

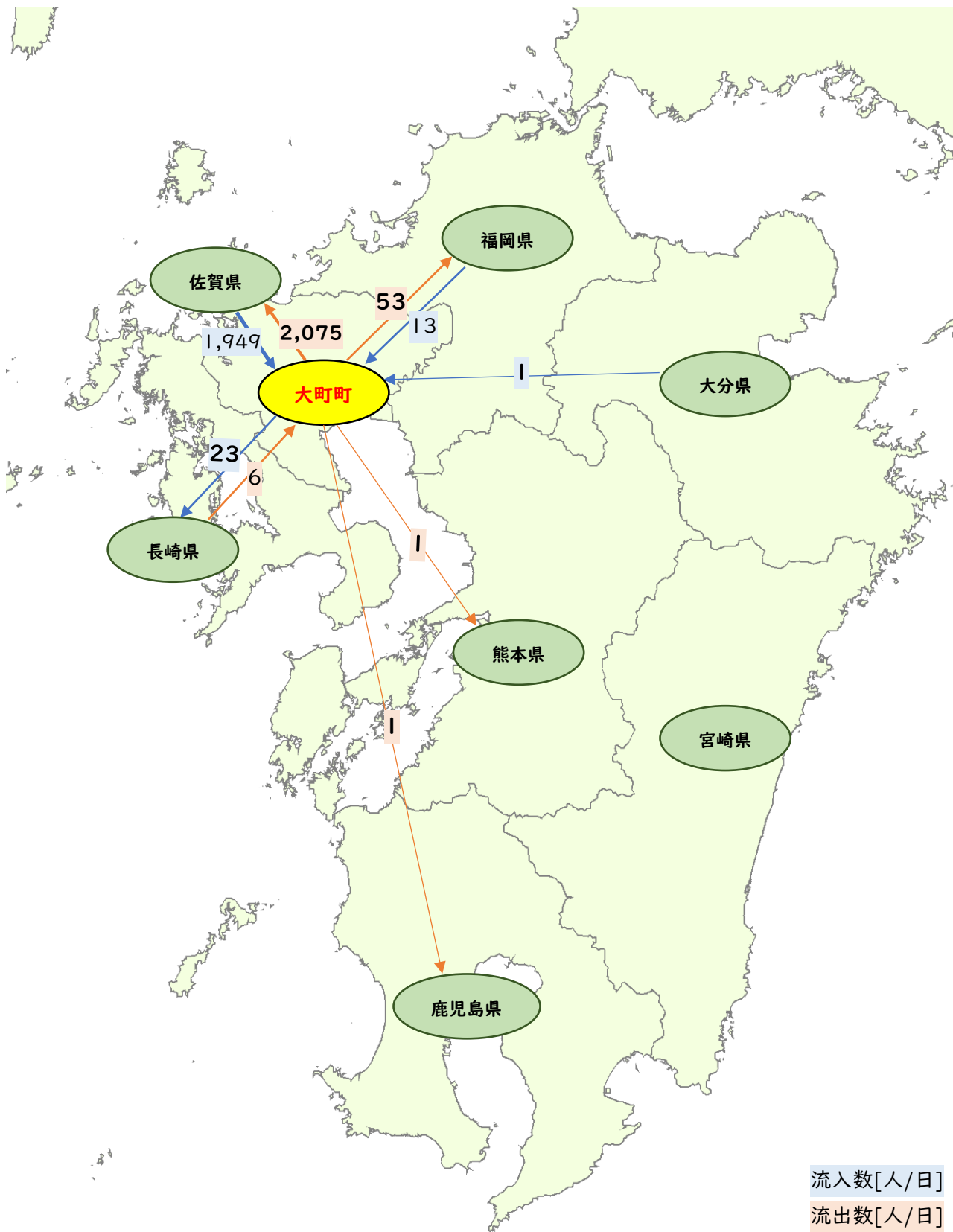


図 18 大町町と佐賀県及び他県との通勤・通学流動（平成 27 年）

出典：国勢調査